

3-1

地区の災害リスクと災害対応力を知る・考える

住吉区編

(2) 住吉区の社会的脆弱性を知る

生田 英輔

住吉区の災害脆弱性を考える上で、住吉区という地域の特性を知る必要があります。住吉区は大阪市の南部に位置し、人口は市内で5位の155,572人(H22国勢調査)、区域面積は市内で9位の9.34平方キロメートルとなっています。人口密度は大阪市平均の11.74千人／平方キロメートル(H12国勢調査)を上回る17.24千人／平方キロメートルとなっています。人口密度は市内で第5位であり住吉大社のある古くからのまちに多くの住民が暮らしています。地域防災において単位となる地域は12地域です。

高齢化率(H22国勢調査)では区全体では大阪市平均に近い24.0%となっていますが、地域毎では遠里小野が30.1%と高い値になっています。一方、菟田は19.3%となっています。町丁目毎の高齢化率を図1に示します。この図からも菟田を含む地下鉄あびこ駅周辺地域の高齢化率が低いことがわかります。

つぎに単身世帯率を見えます。単身世帯は”身軽”ではあるものの、地域コミュニティと関わっていない、近隣住民との付き合いが希薄、地域の状況に詳しくないなど、災害時にデメリットとなる可能性のある特性も持ちあわせています。効果的な共助のためには以下に単身世帯を地域防災活動に巻き込んでいくかが課題ですが、現状では不十分な地域も多いかと思しますので、地域ごとの単身世帯率を比較します。住吉区全体では単身世帯率は43.7%となってい

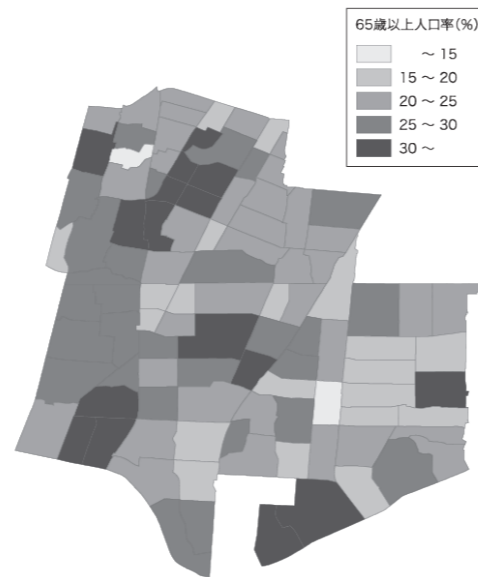


図1 町丁目毎の高齢化率(65歳以上人口率)

ますが、長居53.2%、依羅52.8%と50%を超える地域もあります。長居は大阪市営地下鉄長居駅周辺、依羅は大阪市立大学周辺が原因と考えられます。一方、清水丘32.9%、住吉34.6%など低い地域もあります。町丁目毎の単身世帯率を図2に示します。この図から、区内中央部の地下鉄御堂筋線やJR阪和線に沿った地域で単身世帯率が高いことがわかります。

共助活動において、まず必要とされるのは地域を知っているかということです。地域の危険箇所を知っている、避難経路を判断出来る、地域住民の顔がわかるという住民が多いほど、共助活動は威力を発揮すると考えられます。従って、同じ地域に居住してい

る年数が長い住民の比率も災害対応に影響を及ぼす可能性があります。20年以上の居住歴のある住民の比率は区全体では21.4%となります。最も高い地域は東粉浜で30.7%、ついで清水丘で30.4%です。最も低い地域は依羅で15.2%、ついで菟田で15.8%となります。町丁目ごとの居住歴10年以上比率を図3に示します。この図から区中央部、先ほどの単身世帯率とは異なり、区西部の比率が高いことがわかります。

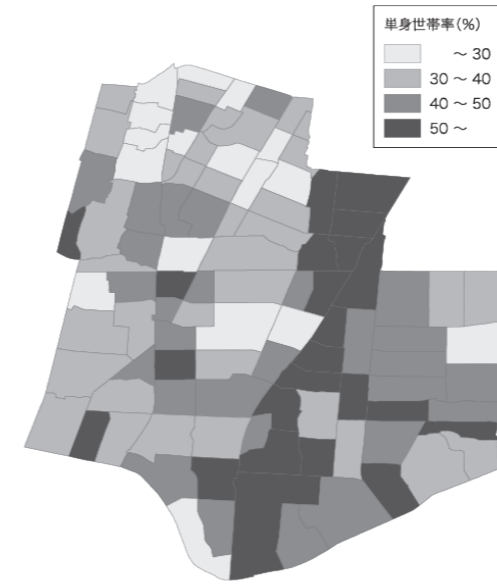


図2 町丁目毎の単身世帯率

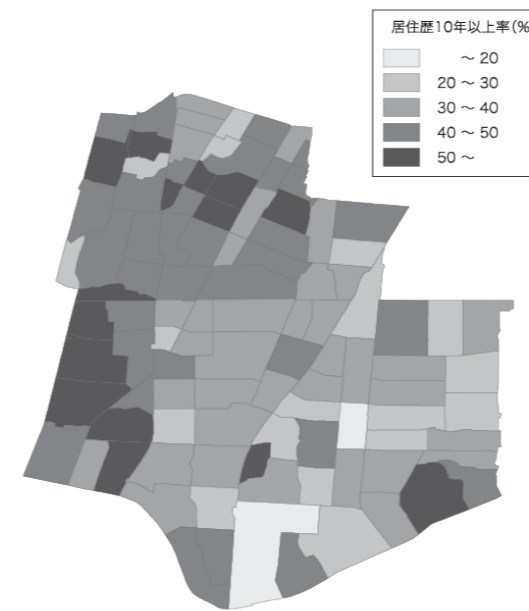


図3 居住歴10年以上率

本稿では国勢調査に基づく分析となりますが、種々の公開データから地域の特性を把握し、災害脆弱性を評価した上で、地域防災活動に活用していただくことが求められています。

大阪市ホームページ
<http://www.city.osaka.lg.jp/>

住吉区ホームページ
<http://www.city.osaka.lg.jp/sumiyoshi/>